

# 変

わる

変化するもの、  
change

建築業者の各種業務及び施工現場では近年、デジタル技術やIT技術の導入が目覚ましく、業務の効率化・合理化が加速している。この動きの根底にあるのは人手不足による人材確保難で、スケジュール及び現場作業の管理をいかに省力化できるかがカギとなっている。

施工管理では、アンドパッド(東京都、稲田武夫社長)の施工管理アプリ「アンドパッド」などによる業



発行所 日刊木材新聞社

施工管理

## アプリとカメラで人件費削減

### 加速する現場管理の合理化



大手ハウスメーカーも採用する吉田東光の現場監視カメラ

務の一元管理システムが広がりがつつある。アンドパッドは、施工の段取りから進捗管理、現場や施主との情報共有、報告書作成など、施工にかかわる各段階の業務効率化を推進できる。アプリにアップロードした施工現場写真に書き込みもできるため、施主への分かりやすい説明にも貢献する。

利便性の高さが認知され、現在では建築関係約5万社が利用するシステムとなった。導入する業種は、マンション管理業から一般工務店まで幅広い。中小工務店の場合、人員が限られているケースも多く、アプリによる一元管理と合理化の効果は大きい。工務店によってはIT技術への対応が遅れているが、同社が

サポートすることでスムーズな運用が可能だ。

現場の管理では、リアルタイムで状況が確認できるカメラの存在意義が大きくなってきた。設置型からウェアラブルまで、カメラのバリエーションが多様化していることは、現場ニーズを捉えている証と言える。

吉田東光(さいたま市、吉田顕社長)は設置型の現場監視カメラ「現場見守る君」を常時1200台以上レンタルしており、導入現場の累計は1万現場を超える。カメラの導入は、防犯

や安全対策が主な目的だが、遠方の現場の状況確認について施主との打ち合わせにも活用できるため、現場監督の時間削減につながる。悪天候や夜間でも、必要な時に状況を把握できるのが動画によるライブ映像

の利点だ。

また、都市部では狭小地での建築もあり、現場及び周辺の道路状況確認にも有効だ。広角視野のカメラは、設置場所により現場内外を同時に視野に収めることもできるため、引き合いが強い。

同社は「カメラで確認することで、現場までの移動時間、交通費や車両燃料費、人件費が削減できる。施工現場周辺の地域安全への貢献もできる」と、現場監視カメラ設置の意義を指摘する。

同社は、カメラ単体での訴求にとどまらず、施工管理アプリとタイアップした業務効率化にも力を入れている。施工現場を含めた一連の業務は、管理アプリやカメラによって垣根がなくなってきた。